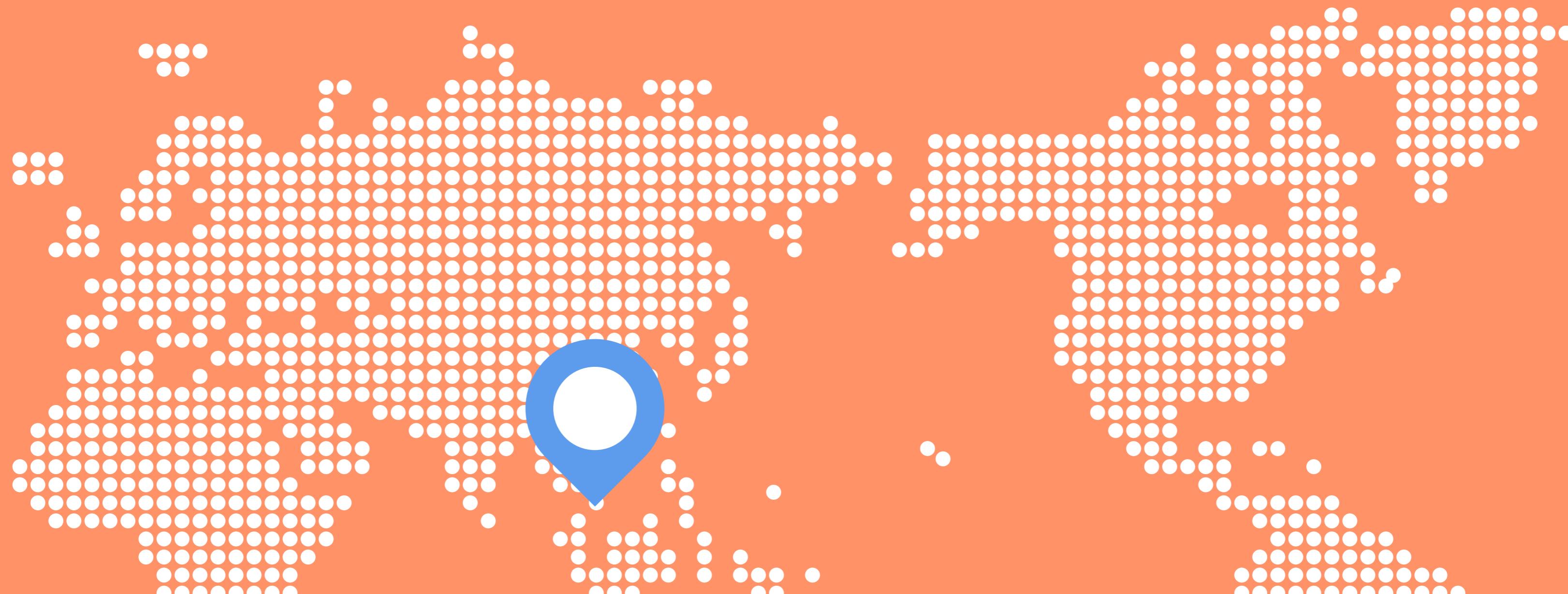


小説「新・人間革命」に学ぶ



4 シンガポール — 師弟に生きる



・小説『新・人間革命』第30巻（下）「誓願」

# シンガポール

2000年11月

2000年11月、山本伸一はシンガポールを訪問。出席した会議で、国名の「シンガポール」が「獅子の都」という意味であることに触れ、仏法は仏を「師子」、仏の説法を「師子吼」と呼ぶことを参加者に話します。

山本  
伸一

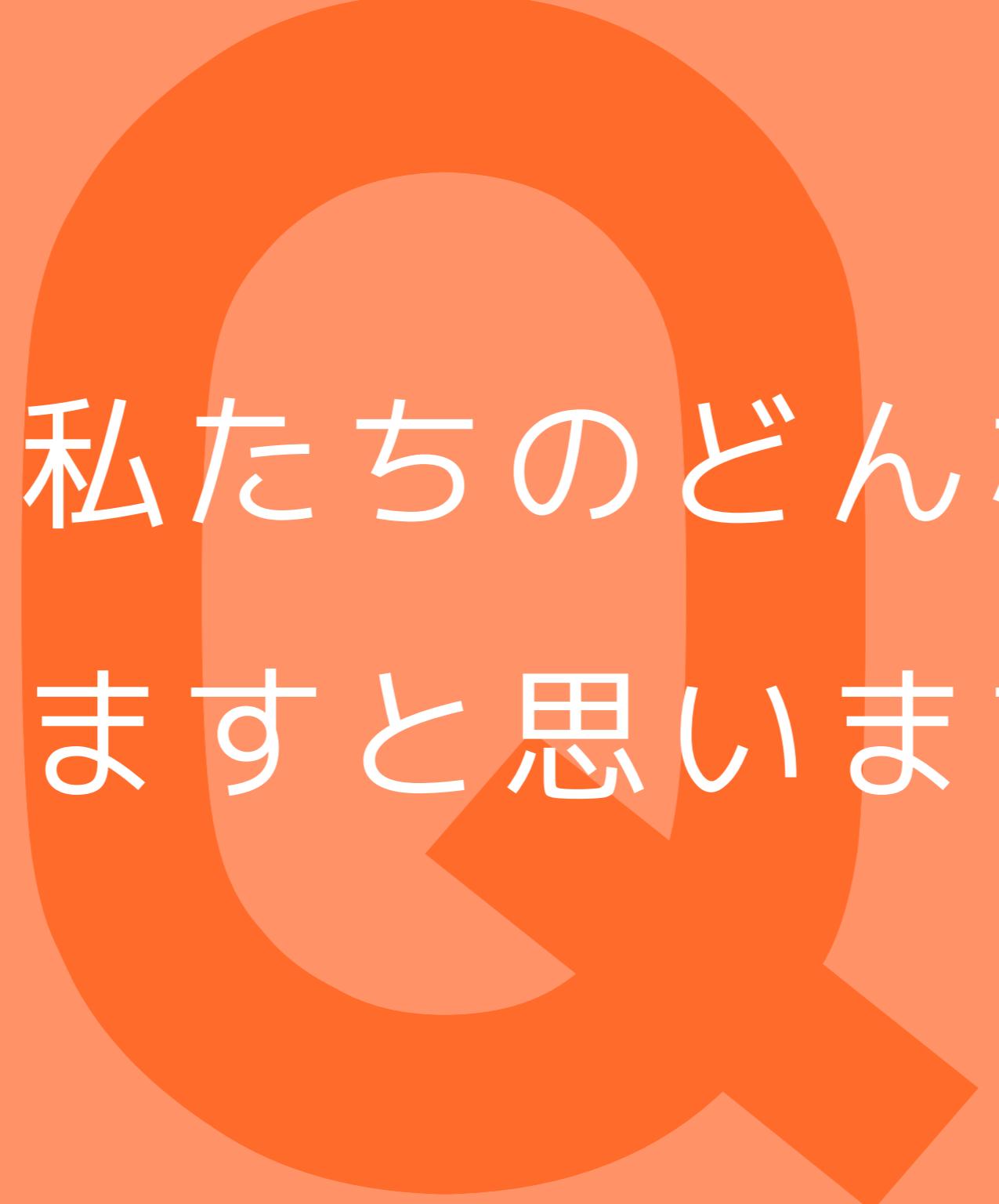
## シンガポール（2000年11月）

（日蓮）大聖人は、「師子」には「師弟」の意義があると説かれている。仏という師匠と共に生き抜くならば、弟子すなわち衆生もまた、師匠と同じ偉大な境涯になれるのを教えたのが法華経なんです。

伸一は次の御文を引きります。

おの おの し し おう こころ とり いだ  
各各師子王の心を取り出して・  
ひと こと  
いかに人をどすともをづる事なけれ  
(御書 1190 ページ)

伸一は、「師子王の心」とは、「勇気」  
であると訴えました。



勇気は私たちのどんな力を  
呼び覚ますと思いますか？

山本  
伸一

## シンガポール（2000年11月）

勇気は、幸福という無尽蔵の宝の扉を開く

力ギです。しかし、多くの人が、それを封印し、

臆病、弱気、迷いの波間に漂流している。ど

うか皆さんは、勇気を取り出し、胸中の臆病

を打ち破ってください。

伸一は、旅先で著しく体調を崩すことや、学  
会への誤解から、政治警察の監視の中で同志の  
激励を続けることもありました。しかし、一步  
も退かず、世界54 力国・地域を訪問。SGIは  
現在、192 力国・地域へと発展しました。

山本伸一にとって師・戸田城聖は  
どんな存在でしょうか。戸田先生  
の存在は、伸一にどのような思い  
や力を与えているのでしょうか？

伸一は折々の場面で次のように語っています。

「“戸田先生ならどうされるだろう。どんな戦いをなされるだろう”と、常に考えている。また、先生がご覧になって、お喜びいただけた自分であるかと、常に問い合わせ続けている。だから力が出せた。勇気を出すことができた」

第8巻「清流」219ページ

“師匠のように偉大な人生を生きる、と決めることで、師の歩んだ高みへ自分を押し上げ、以前からは考えられないような結果を残せたり、小さな自分の殻を破ったりすることができます。

# 池田先生

私が 27 歳の時（の日記）である。「（戸田）先生と、丸半日ご一緒。（中略）先生の日く『大ちゃん、人生は悩まねばならぬ。悩んではじめて、信心もわかる、偉大な人になるのだ』と」偉大な師匠に青春のすべてを捧げ、悩んで悩んで悩み抜いたからこそ、今の私がある。